

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年2月24日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
2月26日（土） 13：30～15：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「生活に身近な One Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」
2月26日（土） 13：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「生物多様性からみたワイルドサイエンス」
3月1日（火） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える～宇宙×都市×遺伝子×生態～」
3月2日（水） 18：30～19：40	三省堂書店札幌 店内 ブックス &カフェ UCC	サイエンスカフェ in 札幌 「気づける不思議、見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～」
3月3日（木） 13：30～16：45	オンライン開催	労働政策フォーラム 「ワーク・ライフ・バランス研究の新局面—データ活用基盤の整備に向けて—」
3月8日（火） 13：00～18：00	大学共同利用機 関法人自然科学 研究機構分子科 学研究所及びオ ンライン	公開シンポジウム 「アト秒レーザー科学研究施設（ALFA）計画の現状と展望」
3月11日（金） 13：00～17：00	日本学術会議講 堂及びオンライ ン	公開シンポジウム 「第7回理論応用力学シンポジウム—力学のさらなる発展に向けて—」
3月12日（土） 14：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「世界の高大接続の現状と課題」
3月13日（日） 13：00～15：45	オンライン開催	学術フォーラム 「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦 システムの転換を目指して」
3月13日（日） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「女性の政治参画をどう進めるか？」

3月13日(日) 14:00~16:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「2021年衆議院総選挙における市民意識―世論調査の課題と若い有権者の動向」
3月14日(月) 13:00~18:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「安全安心技術が支えるデジタル社会 Digital Society Supported by Safety and Security Technologies (DS4T)」
3月15日(火) 13:00~16:50	オンライン開催	学術フォーラム 「コロナ禍を共に生きる#6ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える:「誰も取り残されない」社会を目指して」
3月18日(金) 16:00~18:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス」
3月20日(日) 13:00~17:30	鹿児島大学稲盛 会館メモリアル ホール及びオン ライン	公開シンポジウム 「グリーン・デジタルによる持続的食料生産: 環境保全型DX支援放牧のポテンシャル」
3月21日(月・祝) 13:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「新型コロナウイルス感染拡大がもたらした 日本の食と農をめぐる経済・社会問題」
3月23日(水) 13:00~16:05	オンライン開催	公開シンポジウム 「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバー シティ」第3回 「Disability Inclusive Academia: 障害のある 人々の視点は科学をどう変えるか」



生活に身近なOne Health 食品から検出される **薬剤耐性菌**

の現状



無料・参加申し込みはこちら
(クリックすると登録ページに飛びます)

日時:令和4年2月26日(土)

13:30-15:30

場所:オンライン開催

13:30 開会

高井 伸二 (日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授)

13:35 オープニング

田村 豊 (元日本学術会議連携会員、酪農学園大学名誉教授)

13:55 食肉

下島 優香子 (相模女子大学栄養科学部准教授)

14:15 魚

廣野 育生 (東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門教授)

14:35 野菜・果物

白井 優 (酪農学園大学獣医学類准教授)

14:55 総合討論

関崎 勉 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

後藤 貴文 (日本学術会議連携会員、鹿児島大学教授)

15:25 閉会

眞鍋 昇 (日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐教授)

シンポジウム事務局:scj-tox@vetmed.hokudai.ac.jp

シンポジウム案内: <https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/318-s-0226.html>

分科会WEBサイト: <https://www.scj-vetfood.com/>

公開シンポジウム 「生物多様性からみたワイルドサイエンス」



吉川 泰弘氏

(岡山理科大学獣医学部長)



緒方 博之氏

(京都大学化学研究所教授)



安田 仁奈氏

(日本学術会議連携会員、
宮崎大学農学部准教授)



村山 美穂氏

(日本学術会議第二部会員、
京都大学
野生動物研究センター教授)

日時 2022年 2月 26日(土) 13:30 ~ 17:00
場所 オンライン開催

URL (事前参加申込み 2月23日(水) 正午〆切)

[https://docs.google.com/forms/d/](https://docs.google.com/forms/d/11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA)

[11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA](https://docs.google.com/forms/d/11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA)



シンポジウム「生物多様性からみたワイルドライフサイエンス」実行委員会
連絡先: ws-contact@googlegroups.com (*を@に変更)

主催: 日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会

共催: 総合地球環境学研究所、京大大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター、新学術「共創言語進化」

科研費
KAKENHI



縮退時代において、

20年後のまち・社会を考える

小正 瑞季 (一社) SPACE FOODSPHERE、リアルテックホールディングス (株)
地球と宇宙の食の課題解決を目指す共創プログラム

東樹 宏和 京都大学、サンリット・シードリングス (株)
宇宙船地球号と持続可能な生態系

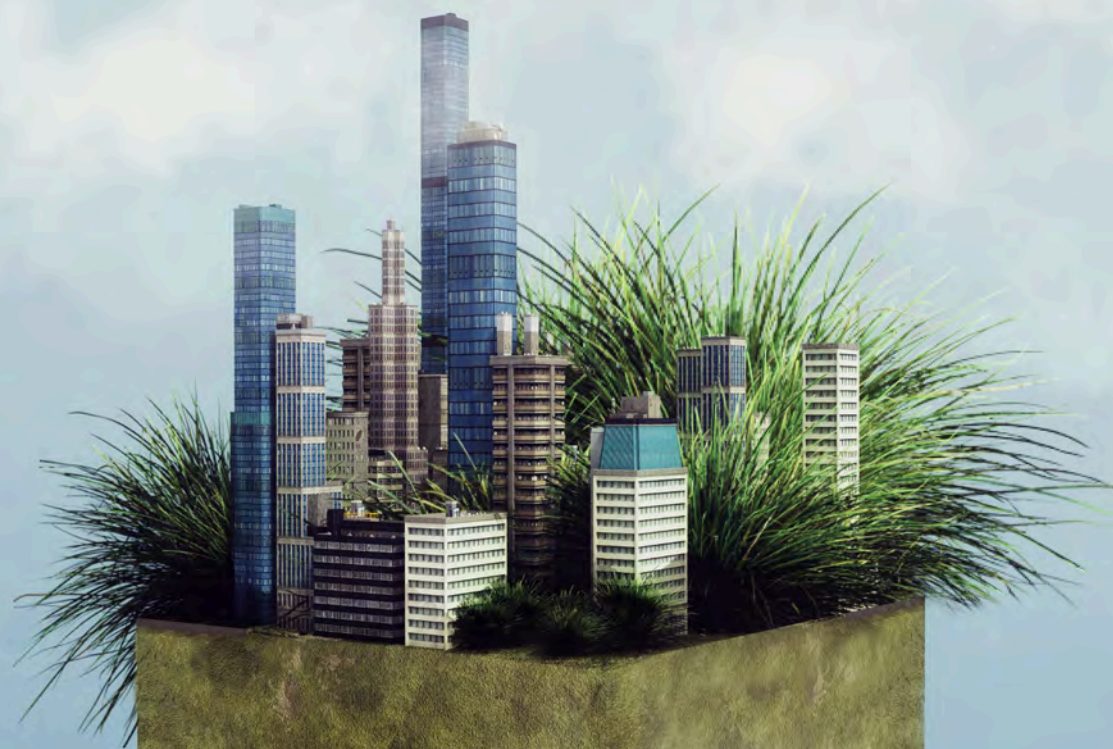
内井 喜美子 大阪大谷大学
環境DNAによる生物多様性観測と自然共生社会実現への道

朝田 将 国土交通省水管理・国土保全局
水と緑、人とまちの、つながりの再構築に向けて

三牧 浩也 柏の葉アーバンデザインセンター
機能や主体が混ざり合うより自由な都市へ

小野 悠 豊橋技術科学大学
つくられる都市からつくる都市へ

岡 祐輔 糸島市企画部経営戦略課
地域の寛容性が未来をつくる



日本学術会議 公開シンポジウム

2022年3月1日 (火) 13:00 ~ 17:00

オンライン開催 事前にこちらからご登録ください ▶



主催 | 日本学術会議 若手アカデミー 越境する若手科学者分科会、土木工学・建築学委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会、気候変動と国土分科会、都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同 自然環境分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 生態科学分科会、農学委員会 農業生産環境工学分科会

縮退時代において、 20年後のまち・社会を考える

少子高齢化による地域社会の縮退、激甚化・頻発化する災害、地球環境問題の顕在化など課題が輻輳化する中で、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合により、人間と自然が調和する新たな社会像が求められています。本シンポジウムでは、宇宙、生態、遺伝子、都市の各領域で、地域に根ざした諸問題の解決に取り組む産官学の若手の実践から、縮退時代における20年後のまち・社会と実現に向けた分野間の連携・融合を議論します。



小正 瑞季



東樹 宏和



内井 喜美子



朝田 将



三牧 浩也



小野 悠



岡 祐輔

2022年3月1日 (火)

13:00 ~ 17:00

オンライン開催

事前にこちらからご登録ください ▶



13:00-13:20

開会挨拶 **岩崎 渉** 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

趣旨説明 **石川 麻乃** 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授

13:20-14:20

宇宙農業から考える20年後のまち・社会：

地球と宇宙の食の課題解決を目指す共創プログラム

小正 瑞季 一般社団法人SPACE FOODSPHERE 代表理事、リアルテックホールディングス株式会社 グロースマネージャー

生態系から考える20年後のまち・社会：

宇宙船地球号と持続可能な生態系

東樹 宏和 京都大学生態学研究センター 准教授、サンリット・シードリングス株式会社 創業者/取締役

環境DNAから考える20年後のまち・社会：

環境DNAによる生物多様性観測と自然共生社会実現への道

内井 喜美子 大阪大谷大学薬学部 助教

流域から考える20年後のまち・社会：

水と緑、人とまちの、つながりの再構築に向けて

朝田 将 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長

14:35-15:20

都市空間から考える20年後のまち・社会：

機能や主体が混ざり合うより自由な都市へ

三牧 浩也 柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長

アフリカから考える20年後のまち・社会：

つくられる都市からつくる都市へ

小野 悠 豊橋技術科学大学 准教授

地方創生人材から考える20年後のまち・社会：

地域の寛容性が未来をつくる

岡 祐輔 糸島市企画部経営戦略課 主任主査

15:35-16:20 総合討論1

パネリスト：講演者7名

コーディネーター：**遠藤 良輔**

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 講師

16:20-16:50 総合討論2

パネリスト：**岩崎 渉** 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

北島 薫 京都大学農学研究科 教授

後藤 英司 千葉大学大学院園芸学研究科 教授

佐々木 葉 早稲田大学理工学術院 教授

コーディネーター：**田井 明**

九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授

16:50

閉会挨拶 **田井 明** 九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授

主催

日本学術会議

若手アカデミー 越境する若手科学者分科会

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会

同委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会

同委員会 都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会

環境学委員会・統合生物学委員会合同 自然環境分科会

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 生態科学分科会

農学委員会 農業生産環境工学分科会

問い合わせ先

小野 悠 ono.haruka.ac*tut.jp | *を@に変更してください

2022

3/2

[Wed] 18:30~

第 34 回三省堂サイエンスカフェ in 札幌

CoSTEP シリーズ 18

要申込み

気づける不思議、見逃す仕組み

～認知心理学から広告を読み解く～

自分ではまったく覚えていないのに、あとから「伝えたよね？」っていわれることはありませんか？それはあなたのせいではなく、もしかしたら伝え方のせいで見逃していたのかもしれません。

認知心理学者の河原純一郎さん（北海道大学大学院文学研究院 教授）は、人間が情報を認知する仕組みを、私たちに身近な広告をテーマに、実験し、そのメカニズムを明らかにしています。私たちが情報に気が付く要因には、その情報自体が目立つ「モノの要因」、私たち自身が情報に注意している「意図の要因」、個人的な価値に紐づけられた「過去の要因」の三つの要因があると整理されています。

本サイエンスカフェでは、その要因を具体的な事例や河原さんが行っている実験事例を通して詳しく紹介していきます。

さてこのチラシに気が付いた皆さんは、どんな理由で気が付きましたか？



河原 純一郎（かわはら・じゅんいちろう）さん

北海道大学大学院文学研究院・教授 日本学術会議連携会員

1970 年生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（心理学）。2015 年より現職。専門は認知心理学。主要業績には『注意 - 選択と統合』（河原 純一郎・横澤 一彦（著）勁草書房、2015 年）、「疲労測定装置、疲労判定方法、及びそのプログラム」（特許第 6090653 号、2017 年 3 月 8 日）など。その他、日本心理学会国際賞奨励賞、第 3 回印東太郎賞などを受賞。



日時：2022 年 3 月 2 日（水）18:30-19:40

会場：三省堂書店札幌店内 ブックス&カフェ UCC

（JR タワー札幌ステラプレイス 5F）



聞き手：奥本 素子

北海道大学 CoSTEP・准教授

主催：三省堂書店 札幌店

共催：北海道大学 CoSTEP

日本学術会議北海道地区会議

参加申込み：三省堂書店 札幌店まで

電話 011-209-5600

もしくは三省堂ウェブサイトから

<https://www.books-sanseido.co.jp/info/sciencecafe/>

参加費：500 円

定員：30 名（事前申込み制・先着順）



ワーク・ライフ・バランス研究の新局面 データ活用基盤の整備に向けて

新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの生活や働き方に大きな影響を与えており、働く人々は新たなワーク・ライフ・バランスの問題にも直面しています。本フォーラムでは、ワーク・ライフ・バランスに関する最新の研究成果を報告するとともに、研究の発展に必要なデータの活用・基盤整備のあり方について議論し、新たな時代におけるワーク・ライフ・バランス実現の課題や有効な政策について経済学的観点から検討します。

2022年 **3月3日 木曜** **13:30-16:45** **ライブ配信** オンライン開催 (Zoomウェビナー)

プログラム

事情によりプログラムの内容が変更になる場合があります。

司会

大石亜希子

日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授

開会あいさつ

樋口 美雄

労働政策研究・研修機構 理事長

報告・討論(1)「EBPM分析レポート・時間外労働の上限規制」

報告 討論

戸田 淳仁
宇南山 卓

厚生労働省政策企画官 (政策統括官付参事官付統計・情報総務室併任)
日本学術会議連携会員、京都大学経済研究所教授

報告・討論(2)「新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス」

報告 討論

臼井恵美子
安井 健悟

日本学術会議連携会員、一橋大学経済研究所教授
日本学術会議連携会員、青山学院大学経済学部教授

休憩

報告・討論(3)「コロナ禍における休校が家族に及ぼす影響」

報告 討論

横山 泉
中村さやか

一橋大学大学院経済学研究科准教授
日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科准教授

報告・討論(4)「テレワーク環境整備とワーク・ライフ・バランス」

報告 討論

大竹 文雄
角谷 快彦

日本学術会議第一部会員、大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授
日本学術会議連携会員、広島大学大学院人間社会科学科教授

総括討論

「ワーク・ライフ・バランス研究発展のためのデータ基盤整備に求められるもの」

臼井教授・大竹特任教授・戸田政策企画官・横山准教授
中井 雅之

労働政策研究・研修機構 主席統括研究員

閉会あいさつ

大竹 文雄

日本学術会議第一部会員、大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授

視聴無料 要申込



お申込みはウェブから

<https://www.jil.go.jp/event/>

労働政策フォーラム



主催：独立行政法人 労働政策研究・研修機構(JILPT)
日本学術会議経済学委員会ワーク・ライフ・
バランス研究分科会

共催：科学研究費補助金基盤研究(B)非典型時間帯就労が
労働者と子どものアウトカムに及ぼす影響に関する
研究(研究代表者・大石亜希子)

開催方法 ハイブリッド開催

https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2022/02/03_5384.html



第7回理論応用力学シンポジウム

ー力学のさらなる発展に向けてー

主催 日本学術会議 機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会
合同 理論応用力学分科会

共催 公益社団法人日本工学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、公益社団法人農業農村工学会、日本計算数理工学会、日本混相流学会（予定）

協賛 公益社団法人自動車技術会、公益社団法人応用物理学会

日時

令和4年3月11日(金) 13:00 - 17:00

場所

日本学術会議講堂 + オンラインのハイブリッド形式

参加料

無料

古典力学は、機械工学におけるいわゆる4力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、学問分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、力学が対象とする問題の多様化にともない、様々な学問分野にまたがる未解決の力学の問題が顕在化してきている。これら諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。このことを背景に、本シンポジウムでは、古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論する。特に本年度は、力学におけるデジタルツインをキーワードに、力学に関する様々な分野で現在まさしく活躍している研究者の方々にご講演を頂く。また後半では、国際理論応用力学（IUTAM）シンポジウムの提案を検討している研究者により、提案内容に関する講演を行う。最後の総合討論では、今後の力学教育や研究について意見交換を行い、学生や若手研究者の参加により、力学のさらなる発展について皆で考えていくことを目指す。

司会：荒木稚子（日本学術会議連携会員、埼玉大学大学院理工学研究科・教授）

13:00 開会の挨拶 前川宏一（日本学術会第三部会員、横浜国立大学大学院工学研究院・教授）

13:10 招待講演（1）「Big data & extreme-scale computing による解析能力の向上」

市村 強（東京大学地震研究所・教授）

13:40 招待講演（2）「炭素繊維複合材を用いた航空機主翼設計のデジタル化、
(Digital transformation of aircraft wing design using carbon fiber composite materials)」

阿部 圭晃（東北大学流体科学研究所・助教）

14:20 招待講演（3）「計測データと物理モデルの融合による
全脳血液循環シミュレーションモデルの構築」

伊井 仁志（東京都立大学システムデザイン研究科・准教授）

14:50 招待講演（4）「New era of cross-scale modeling for materials design」

澁田 靖（東京大学大学院工学系研究科・准教授）

15:30 IUTAM 提案講演 司会：山西陽子（日本学術会議連携会員、九州大学・教授）

挨拶：堀宗朗（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構(JAMSTEC)・部門長）

垂水 竜一(大阪大学・教授)(山口哲夫(東京大学・准教授), 前田真吾(芝浦工業大学・教授),

山田崇恭(東京大学・准教授)) 「Mechanics of soft materials and soft robots」

深淵 康二 (慶応大学・教授) 「Toward Machine-Learning Assisted Fluid Mechanics」

16:50 閉会の挨拶 高田保之（日本学術会議第三部会員、九州大学大学院工学研究院・教授）

17:00 閉会

参加申込み方法

参加を希望される方は、3/8(水)12:00までに下記URLまたは右のコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了します。 <https://forms.gle/Pxmr1dXbovWZFHQ8>



The 7th Symposium on Theoretical and Applied Mechanics

Public Symposium

— Toward Further Development of Mechanics —

Organizing	Committee on Mechanical Engineering, Committee on General Engineering, Committee on Civil Engineering and Architecture, Science Council of Japan Joint Subcommittee on Theoretical and Applied Mechanics
Co-sponsored	The Japan Federation of Engineering Societies (JFES), The Society of Chemical Engineers, Japan (SCEJ), The Japanese Geotechnical Society (JGS), Japan Society of Civil Engineers (JSCE), The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM), Japan Association for Wind Engineering (JAWE), The Japan Society of Mechanical Engineers (JSME) The Meteorological Society of Japan (MSJ), The Japan Society for Computational Engineering and Science (JSCES), The Architectural Institute of Japan (AIJ), The Atomic Energy Society of Japan (AESJ), the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences (JSASS), The Society of Materials Science, Japan (JSMS), The Japan Association for Earthquake Engineering (JAE), The Mathematical Society of Japan (MSJ) The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (JASNAOE), The Heat Transfer Society of Japan (HTSJ), The Physical Society of Japan (JPS), The Japan Society of Fluid Mechanics (JSFM), The Society of Rheology, Japan (SRJ), The Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering (JSIDRE), Japan Society for Computational Methods in Engineering (JASCOME), The Japanese Society for Multiphase Flow (JSMF), (Tentative)
Supporting organization	The Society of Automotive Engineers of Japan (JSAE), The Japan Society of Applied Physics (JSAP)

Date

13:00 - 17:00, 11th of March, 2022

Venue

Auditorium, Science Council of Japan and Online

Fee

Free

Classical mechanics tends to be regarded as a fundamental discipline established in each academic field, such as the so-called four dynamics in mechanical engineering (mechanical mechanics, mechanics of materials, fluid mechanics, and thermodynamics). However, with the diversification of the problems targeted by mechanics, unresolved problems in mechanics across various disciplines have become apparent. In order to tackle these problems, it is necessary to integrate with a wide range of disciplines that are not bound by the framework of existing fundamental disciplines. In order to tackle these issues, it is necessary to integrate with a wide range of disciplines beyond the boundaries of the existing fundamental disciplines. In particular, this year we will have lectures by researchers who are currently active in various fields related to mechanics, with the keyword of "digital twin" in mechanics. In the latter half of the session, researchers who are considering proposals for the International Symposium on Theoretical and Applied Mechanics (IUTAM) will give lectures on their proposals, also discussions will be held to exchange opinions on future mechanics education and research, and students and young researchers will be invited to participate in the discussions to discuss the further development of mechanics.

Chair: Wakako Araki (Associate Member, Science Council of Japan; Professor, Graduate School of Science and Engineering, Saitama University)

13 : 00 Opening Remarks Koichi Maekawa (Member of the Third Section of the Science Council of Japan, Professor, Graduate School of Engineering, Yokohama National University)

13 : 10 Invited lecture 1 「Improving analytical capabilities through big data & extreme-scale computing」
Tsuyoshi Ichimura (Professor, Earthquake Research Institute, The University of Tokyo)

13 : 40 Invited lecture 2 「Digital transformation of aircraft wing design using carbon fiber composite materials」

Yoshiaki Abe (Assistant Professor, Institute of Fluid Science, Tohoku University)

14 : 20 Invited lecture 3 「Integration of Measurement Data and Physical Model Simulation Model for Whole Brain Blood Circulation」

Satoshi Ii (Associate Professor, Graduate School of System Design, Tokyo Metropolitan University)

14 : 50 Invited lecture 4 「New era of cross-scale modeling for materials design」

Yasushi Shibuta (Associate Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo)

15 : 30 IUTAM Proposal Lectures Chair : Yoko Yamanishi (Professor, Kyushu University)

Address : Muneo Hori (Director, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC))

Ryuichi Tarumi (Professor, Osaka University) **「Mechanics of soft materials and soft robots」**

(Tetsuo Yamaguchi (Associate Professor, The University of Tokyo), Shingo Maeda (Professor, Shibaura Institute of Technology), Takayuki Yamada (Associate Professor, The University of Tokyo))

Koji Fukagata (Professor, Keio University) **「Toward Machine-Learning Assisted Fluid Mechanics」**

16 : 50 Closing Remarks Yasuyuki Takata (Member of the Third Section of the Science Council of Japan, Professor, Graduate School of Engineering, Kyushu University)

17 : 00 Closing

Registration

If you wish to participate, please register in advance by **12:00 on March 8 (Wed)** at the URL below or by using the code on the right. Pre-registration will be closed as soon as capacity is reached. <https://forms.gle/Pxmr1dXbovWZFHQ8>



Contact : Shu Takagi (Professor, The Univ. Tokyo) e-mail : takagi * mech.t.u-tokyo.ac.jp (Please change * to @ when you send it.)

世界の高大接続の現状と課題

開催趣旨

後期中等教育から高等教育への進学者が少数であった時代においては、高大接続とは入学者選抜という一接点のみの問題であった。後期中等教育でどれだけの準備をして力をつけた学生を選抜するかが高大接続の焦点であった。しかしながら、高等教育とりわけ大学への進学率が上昇するにつれ、高大接続の課題は、入学者選抜という一接点に加え、後期中等教育における教育内容と大学におけるそれとの関係、後期中等教育機関から大学へ移行する生徒・学生の学習状況など、面へと拡がりを見せるようになった。

世界に先駆けて高等教育の拡大が進んだアメリカでは、この問題は1世紀にわたって論じられており、近年、高等教育進学率が急増したヨーロッパでも、また、厳しい入学試験で知られる東アジアでも、高大接続が多面的に論じられるようになった。

そこで、本シンポジウムでは、アメリカ、ヨーロッパ、東アジアにおける高大接続の現状と課題を日本を念頭において相互に比較し、日本における高大接続の在り方を考える上での示唆を得ることを目的とする。

日時

2022年 3月 12日（土）14:30-17:00

場所

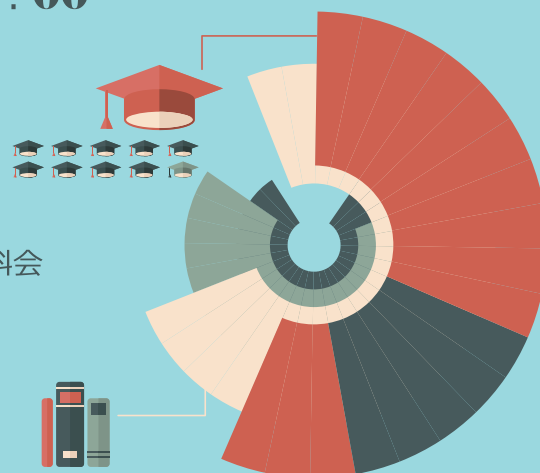
Zoom（ウェビナー）によるオンライン開催

主催

日本学術会議 心理学・教育学委員会 高大接続を考える分科会
教育関連学会連絡協議会

問い合わせ先

教育関連学会連絡協議会事務局（日本教育学会事務局内）
jimu@jera.jp



申込方法

以下のwebページからお申し込みください。
申込フォーム：<https://forms.gle/dWHNoueE7GKF7gHd6>
3月9日ごろをまでに、参加方法URL等をメールでご案内いたします。

プログラム

- 14:30 ～ 開会挨拶・趣旨説明：松下 佳代（京都大学教授）
- 14:35 ～ 報告 1：山田 礼子（同志社大学教授）
「高大接続の視点から見た初年次教育の動向と新入生のプロフィール」
- 14:55 ～ 報告 2：松浦 良充（慶応義塾大学教授）
「アメリカ高等教育におけるリベラル・アーツの再定位—中等／高等教育接続の観点から—」
- 15:15 ～ 報告 3：渡邊 雅子（名古屋大学教授）
「バカロレア試験に見る教育と社会のグランド・デザイン—小論文による接続の形—」
- 15:35 ～ 報告 4：南部 広孝（京都大学教授）
「東アジア諸国・地域における大学入学者選抜の改革動向—高校教育段階の学習・活動成果の活用を中心に—」
- (15:55 ～ 休憩)
- 16:05 ～ 指定討論：中村 高康（東京大学教授）
- 16:20 ～ 質疑応答
- 16:55 ～ 総括・閉会挨拶：勝野 正章（東京大学教授）
- 司会：吉田 文（早稲田大学教授）

1+1=?



2022 年
3月13日(日)
13:00 ~ 15:45

オンラインによる開催

参加費／無料

お申込み

[https://form.cao.go.jp/
scj/opinion-0110.html](https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html)



お問合せ

日本学術会議事務局
企画課学術フォーラム担当

TEL/ 03-3403-6295



カーボンニュートラル社会の実現に向けた
学術の役割と課題を論じ
関心のある人が
カーボンニュートラルに関わる課題を
俯瞰できるようにする

学術の挑戦

カーボンニュートラル実現に向けた
システムの転換を目指して

全体司会／丹下 健 日本学術会議第二部副部長、東京大学副学長・大学院農学生命科学研究科教授

Time Schedule

1 カーボンニュートラルと学術の課題……13:00 - 13:15

▶はじめに

梶田 隆章 日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所教授

▶企画全体の導入・俯瞰の報告、COP26 の報告

高村 ゆかり 日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授

2 パネルディスカッション1「最新の気候科学の知見と課題」……13:15 - 14:15

モデレータ：三枝 信子 日本学術会議会員、国立環境研究所地球システム領域領域長

▶「IPCC WG I 第6次評価報告書の概要と課題」

渡部 雅浩 東京大学大気海洋研究所教授

▶「気候変動と健康」

橋爪 真弘 東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授

▶「カーボンニュートラルの絵姿：長期的な見直しと課題」

藤森 真一郎 京都大学大学院工学研究科准教授

休憩……14:15 - 14:30

3 パネルディスカッション2「カーボンニュートラル社会へのシステム転換」……14:30-15:30

モデレータ：吉村 忍 日本学術会議第三部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授

▶「カーボンニュートラル社会のためのセクター別の技術・政策課題と研究の役割」

田中 加奈子 産業技術総合研究所エネルギー環境領域ゼロエミッション研究戦略部総括企画主幹

▶「カーボンニュートラルに貢献する土地利用と農林業政策の最適化とは？」

北島 薫 日本学術会議会員、京都大学農学研究科教授

▶「カーボンニュートラルに向けた経済社会の転換」

諸富 徹 日本学術会議連携会員、京都大学大学院経済学研究科・地球環境学堂教授

4 まとめと今後の展望……15:30 - 15:45

高村 ゆかり 日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授

女性の政治参画をどう進めるか？



総司会：三尾裕子（慶應義塾大学文学部教授）
開会の挨拶：南野佳代（京都女子大学法学部教授）／林伴子（内閣府男女共同参画局長）
趣旨説明：三浦まり（上智大学法学部教授）

【第一部】改正法を活かす

司会：三成美保（奈良女子大学大学院生活環境科学系教授）

大倉沙江（筑波大学人文社会系助教）／江藤俊昭（大正大学社会共生学部教授）
「地方議会におけるハラスメント防止に向けて」

永野裕子（豊島区議会議員）
「地方議会の環境整備について」

内藤忍（独立行政法人労働政策研究・研修機構副主任研究員）
「改正法におけるハラスメント対策・両立支援の規定を活かすための施策」

武田宏子（名古屋大学大学院法学研究科教授）
「イギリスからの示唆：候補者選定過程を中心に」

【第二部】各国のクオータ事情

司会：大串和雄（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

糠塚康江（東北大学名誉教授）
「フランスからの示唆」

申琪榮（お茶の水女子大学ジェンダー研究所教授）
「韓国からの示唆」

遠藤貢（東京大学大学院総合文化研究科教授）
「アフリカからの示唆」



【第三部】推進法の役割と今後の課題

司会：三浦まり
報告：中川正春（衆議院議員）／土屋品子（衆議院議員）／矢田わか子（参議院議員）
閉会の挨拶：大沢真理（東京大学名誉教授）

政治分野における男女共同参画推進法は施行から3年後の2021年に改正され、政党の努力義務内容の充実化（候補者選定過程の改善、人材育成、セクハラ・マタハラ防止）、国・地方公共団体・議会の環境整備等に関する義務規定、セクハラ・マタハラ防止等が盛り込まれた。また、政府の「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」は、国会議員候補者に占める女性の割合を、2025年までに35%以上にするよう政党に要請し、同期間に地方選挙でも女性候補者の割合を35%以上としている。しかしながら、2021年の総選挙では女性議員が2人減るという結果に終わった。本シンポジウムは女性の政治参画を進めることを目的とする改正法の実効性を高めるための施策及び積み残し課題について、諸外国等の事例を参照しつつ議論する。

〔日時〕令和4年 **3月13日（日）** 13:30～17:30

オンライン開催（Zoom webinar）※要事前申込・登録制 **〈参加無料〉**

参加申し込み https://sophia-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_2VBCr4n5QkCjgBYwrOf5Wg



〔主催〕日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会、政治学委員会比較政治分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会

〔後援〕内閣府男女共同参画局、全国都道府県議会議員会、全国市議会議員会、全国町村議会議員会、ジェンダー法学会

〔協力〕科研費（研究課題番号：18H00817、代表：三浦まり）

公開シンポジウム

2021 年衆議院総選挙における市民意識 —世論調査の課題と若い有権者の動向—



コロナ禍の中で実施された 2021 年衆議院総選挙では、ここ 4 年間の民意の行方がどのような結果となって表れるかが注目されました。選挙後には、事前の世論調査と結果のずれ、また若い有権者の意識や参加動向にも関心が集まりました。本シンポジウムではこうした点を踏まえながら、今回の総選挙における市民意識を読み解き、今後の日本政治について考えます。

●主 催： 日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、文部科学省科学研究費補助金「JESⅦ調査実施による選挙研究から代議制民主主義研究への展開とデータ公開」

●日 時： 2022 年 3 月 13 日(日)14:00～16:30 オンライン開催(zoom webinar)

●次 第：

司 会 石上 泰州(日本学術会議連携会員、平成国際大学法学部教授)

14:00 開会あいさつ

内山 融(日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)

14:05 報告 1「コロナ禍の世論・世論調査と総選挙」

井田 正道(日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授)

14:30 討論 1 河野 武司(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授)

14:40 報告 2「2021 年衆院選における有権者意識」

小林 良彰(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学名誉教授)

15:05 討論 2 西川 伸一(日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授)

15:15 休憩

15:25 報告 3「若者の政治意識」

能條 桃子(NO YOUTH NO JAPAN 代表)

15:50 討論 3 中谷 美穂(日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部教授)

16:00 討論や質問に対する報告者のリプライ

16:25 閉会あいさつ

谷口 尚子(日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

16:30 閉会

●参加無料・入退室自由

●参加のお申込み：<https://forms.gle/626EKTmp2nGRfRkU6>

●お問い合わせ先： 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

Email: sdm@info.keio.ac.jp



安全安心技術が支える デジタル社会

Digital Society Supported by Safety and Security Technologies (DS4T)

デジタル社会のもたらす恩恵や脅威などは、医療、教育、産業界など各種業界にかかわらず議論できるものもあるだろう。このようなデジタル社会がもたらす各種システムの恩恵を共有する一方、デジタル社会の脅威とそれらを解決する技術・枠組みの必要性を明確にすることが必要である。絶対なる安全はないという前提において、恩恵と脅威のトレードオフを明確にすることでデジタル社会システムの浸透のためにすべきことを明らかにする。

2022. **3.14** 月

開始時間: 13:00~18:00

開催場所: オンライン開催

参加費: 無料(事前に申し込みが必要です)

参加申込: https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_6WuA1ISMQhy8KpLBG_t3RA

開催概要: <http://www.scj.go.jp/ja/event/2022/320-s-0314.html>

事前アンケート: <https://forms.gle/5VR7TsGbyzJcVjQGA>

プログラム

13:00 開会の挨拶

宮地 充子(日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授、
北陸先端科学技術大学院大学教授)

13:15-16:10 講演

司会: 岩村 誠(日本学術会議連携会員、日本電信電話株式会社特別研究員)

13:15-13:55「安全安心技術が支えるデジタル社会の制度設計」

須藤 修(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、中央大学国際情報学部教授)

13:55-14:35(仮題)「企業におけるDX進展とサイバーセキュリティ対策」

野原 佐和子(株式会社イプシ・マーケティング研究所代表取締役社長)

14:35-14:50(休憩)

14:50-15:30「地方自治体における安全安心が支えるデジタル社会の取組について」

馬奈木 俊介(日本学術会議第一部会員、九州大学大学院工学研究科教授)

15:30-16:10「デンマークにおける安全安心技術が支えるデジタル社会設計について」

安岡 実佳(Roskilde University准教授、北欧研究所代表)

16:10-17:40 パネルディスカッション

コーディネーター: 須藤 修

パネラー:

野原 佐和子、馬奈木 俊介、安岡 実佳、楠 正憲(デジタル庁統括官)、後藤 厚宏(情報セキュリティ大学大学院学長)、

松浦 幹太(日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

17:40-18:00 総括

高田 広章(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

18:00 閉会

主催: 日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会

後援: 日本セキュリティ・マネジメント学会、日本ネットワークセキュリティ協会、情報処理学会

日本学術会議 学術フォーラム

コロナ禍を共に生きる #6

ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える 「誰も取り残されない」社会を目指して

主 催：日本学術会議

日 時：令和4年3月15日（火）13:00～16:50

場 所：オンライン どなたでも無料で参加できます。

下記のURLまたはQRコードからお申込みください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.html>

問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

電話：03-3403-6295



2020年初頭から世界的に感染拡大したCOVID-19は、それ以前から世界が抱えていた問題を顕在化させ、増幅した。差し迫った疫病の不安は、リスク配分に関する不公平感や、全体の安全と私的自由の相克、弱者への対応の不備など、様々な問題を改めて浮かび上がらせた。沸騰する議論のなかで、社会の基盤である民主主義や社会信頼の揺らぎを危惧する声さえ上がっている。本フォーラムは、社会理論研究の立場から、COVID-19の波に翻弄される社会の動態を俯瞰的に検討し、「誰も取り残されない」未来を展望する。

総司会

有田 伸（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）

開会挨拶・開催趣旨

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、社会理論分科会委員長、学習院大学教授）

講演

「コロナ・パンデミックと未来社会」 山極 壽一

（日本学術会議連携会員、前会長、人間文化研究機構総合地球環境学研究所長）

「コロナ・パンデミックと民主主義」 安中 進（早稲田大学）

「コロナ・パンデミックと自殺」 山田 陽子（追手門学院大学）

パネルディスカッション

ファシリテーター

筒井 淳也（日本学術会議連携会員、立命館大学教授）

討論者

今田 高俊（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

盛山 和夫（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

落合 恵美子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教授）

総括・閉会挨拶

山田 真茂留（日本学術会議連携会員、早稲田大学教授）

公開シンポジウム

複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス

2022年3月18日（金）16:00～18:30

サイエンスにおいては、異分野の概念や研究手法を導入することによりブレーク・スルーが起こり発展してきている例が数多くある。複雑系である食品の場合、タンパク質、油脂、デンプン等の成分が、加工・保存の過程で物理的および化学的作用により性状が大きく変化する上に、成分間の相互作用も変化する。そのため、異分野の単純系で発展した研究手法をそのまま導入できる訳ではないが、異分野の概念を新たに取り入れることにより壁を打ち破り、光を差し込むことは可能である。本シンポジウムは、そのようなチャレンジングな研究を行っている研究者に、ご自身の研究を紹介していただくことで、壁にぶつかっている研究に新たな光を差し込み、フードサイエンスのさらなる発展につなげることを期待して企画した。

Web 開催

参加費無料
要事前登録



参加申込フォームに記入し
登録していただきました方に
ログイン情報をご連絡します。

開会挨拶 熊谷 日登美（日本学術会議 第二部会員，日本大学生物資源科学部 教授）

フードナノバイオサイエンスで拓く食の安全の可視化

飯嶋 益巳（東京農業大学応用生物科学部 准教授）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議 第二部会員，日本大学生物資源科学部 教授）

植物由来芳香族化合物を分解する酵素と微生物の解析：農業加工残渣の高付加価値化に向けて
大田 ゆかり（群馬大学食健康科学教育研究センター 講師）

座長：飯嶋 益巳（東京農業大学応用生物科学部 准教授）

量子ビーム小角散乱解析による食品タンパク質のナノ構造の解明

裏出 令子（京都大学複合原子力科学研究所 特任教授）

座長：大田 ゆかり（群馬大学 食健康科学教育研究センター 講師）

移動現象論に基づく水溶性食物繊維への低分子の吸着挙動の解析

熊谷 仁（共立女子大学家政学部 教授）

座長：裏出 令子（京都大学 複合原子力科学研究所 特任教授）

化学工学的なアプローチを用いた脂質の酸化・抗酸化メカニズム解析

北川 尚美（日本学術会議 第三部会員，東北大学大学院工学研究科 教授）

座長：熊谷 仁（共立女子大学家政学部 教授）

近赤外非侵襲イメージングのフードサイエンスへの応用

三輪 佳宏（理化学研究所バイオリソース研究センター 室長）

座長：竹中 麻子（日本学術会議 連携会員，明治大学農学部 教授）

閉会挨拶 裏出 令子（京都大学複合原子力科学研究所 特任教授）

問い合わせ先： 熊谷 日登美
SCJ25.Symposium@gmail.com

公開シンポジウム

「グリーン・デジタルによる持続的食料生産：環境保全型DX支援放牧のポテンシャル」

主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

共 催：日本畜産学会、日本産肉研究会、家畜感染症学会

後 援：一般社団法人日本草地畜産種子協会、鹿児島大学、大阪国際大学

日 時：令和4年（2022年）3月20日（日）13:00～17:30

場 所：鹿児島大学稲盛会館メモリアルホール（鹿児島県鹿児島市郡元1-21-24）
（ハイブリッド開催）

開催趣旨：2020年度の我が国の食料自給率は、前年度より1ポイント低い37%となり、飼料自給率（約25%）を反映しない牛肉の自給率は36%、飼料自給率を勘案すると10%以下にすぎない惨状であります。本来反芻動物の牛は穀物の生産に適さない過酷な環境でも栽培可能な牧草、稲藁や麦藁などの農場廃棄物などの粗飼料だけで生育できる家畜です。しかし我が国では商品価値を高めるために大量の穀物を給与して飼養しています。地球規模で進行している食料危機への対策として、原点にもどって人類が直接利用できない植物資源である粗飼料の活用によって高品質な食料の増産を継続性のある産業として具現化するべく本シンポジウムを企画しました。

地球温暖化対策も人類が克服しなくてはならない大きな課題となっています。我が国では2021年6月「2050年カーボン・ニュートラル」を目標に産業構造や経済社会の変革を大きな成長につなげるための「グリーン成長戦略」が作成されました。これに対応して同年12月に農林水産省が「みどりの食料システム戦略：2050年のカーボン・ニュートラルの実現」を策定し、先端的デジタル技術を駆使した（デジタルトランスフォーメーション：DX）スマート農林水産業によるゼロエミッション化、食料の輸入依存を脱却するための地域資源最大活用を介して持続的農林水産業の構築などを推進することとなりました。

本シンポジウムでは、中山間地の未利用林野や耕地、耕地面積の8%（琵琶湖の面積の6倍弱）に達している耕作放棄地などを放牧地として有効利用するために、DX支援放牧のポテンシャルを持続可能な飼養衛生管理という学術の視点だけでなく、農業ビジネスの視点、アニマルウェルフェアの視点、有効的カーボン循環の視点、先進地オーストラリアの視点から議論し、我が国に最適化された方策を考える機会としたいと思います。

次 第：

13:00 開会の挨拶

眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐教授、東京大学名誉教授）

座長：後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系教授）

- 13:10～13:45 「日本の放牧の現状と課題:AI と IoT を活用した親子周年放牧の可能性」
山本 嘉人（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農研機構畜産研究部門研究推進部上席研究員）
- 13:45～14:20 「放牧のポテンシャル:オーストラリアの放牧戦略と未来」(オンライン講演)
Sabine SCHMOELZL (Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization [CSIRO] Agriculture and Food 上席研究員、オーストラリア)
- 14:20～14:55 「放牧と家畜飼養と環境保全:科学的な放牧の検証」
八代田 真人（岐阜大学応用生物科学部教授）
- 14:55～15:30 「放牧と新しい農業ビジネス:現状と課題」
小野 隆一（トゥルーバホールディングス株式会社社長）
- 15:30～16:05 「放牧における DX のポテンシャルと食肉生産」
後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系教授）
- 16:05～16:30 「医師から見た日本における放牧牛肉の可能性」
斎藤 糧三（日本機能性医学研究所所長、医師）
- 16:30～16:45 「日本草地畜産種子協会の放牧認証の取り組み」
元村 聡（日本草地畜産種子協会理事）
- 16:45～17:20 総合討論（ハイブリッド）
座長：
後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系教授）
吉澤 緑（日本学術会議連携会員、宇都宮大学農学部名誉教授）

コメンテーター：
木村 直子（日本学術会議連携会員、山形大学農学部教授/岩手大学大学院連合農学研究科教授）
梅村 恭子（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長）
- 17:20～17:30 とりまとめと閉会の挨拶
眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐教授、東京大学名誉教授）

新型コロナウイルス感染拡大がもたらした

日本の食と農をめぐる経済・社会問題

2022

3/21 月祝

13:00-17:00

オンライン開催

申込先: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg1_220321/

参加費無料・
要事前登録

祝



主催: 日本学術会議農学委員会農業経済学分科会

共催: 日本農業経済学会、農業問題研究学会、日本フードシステム学会、
日本農業市場学会、地域農林経済学会

後援: 農業経済学関連学会協議会、日本農学アカデミー、
東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン

13:00

開会挨拶

中嶋 康博

(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

◇総合司会

清原 昭子

(日本学術会議連携会員、福山市立大学都市経営学部教授)

13:10

『日本農業経済学会からの報告:』

ポストコロナ社会の食料・農業・農村』

小田切 徳美

(日本学術会議連携会員、明治大学農学部教授)

13:40

『農業問題研究学会からの報告:』

新型コロナウイルス感染拡大下における食料・農業・農村問題』

冬木 勝仁

(東北大学大学院農学研究科教授)

14:10

『日本フードシステム学会からの報告:』

フードシステムにおける新型コロナ感染症拡大および構造的課題への対応』

新山 陽子

(立命館大学食マネジメント学部教授)

14:40-14:50 休憩(10分)

14:50

『日本農業市場学会からの報告:』

グローバル化とローカル化の相克と新たな連携ーポストコロナ社会における

食料・農産物市場を見据えてー』

野見山 敏雄

(東京農工大学大学院農学研究院教授)

15:20

『地域農林経済学会からの報告:』

コロナ禍における農業生産・販売体制の変容ー地域からの実態報告を受けて』

松村 一善

(鳥取大学農学部教授)

木原 奈穂子

(鳥取大学農学部講師)

15:50

総合討論

◇司会

立川 雅司

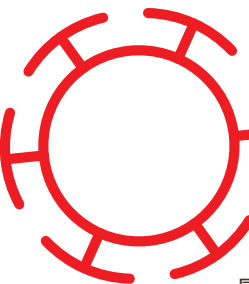
(日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授)

16:50

閉会挨拶

納口 るり子

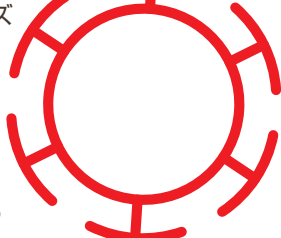
(日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授)



新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大してから2年が過ぎた。その過程で多くの
人々の健康が損なわれることとなり、尊い命
が失われ、生活は大混乱に陥ることとなった。
感染者の発生によって様々な業種で工場が操
業できなくなるなど、世界規模で経済は変調をきたした。感染制圧の
ために行われた活動制限は特に外食産業や観光業に大きな打撃を与
え、そのことは農業や関連する食料産業、そして地域を巻き込むこと
となった。ただし幸いにしてわが国の食料・農業・農村は、想像以上の
頑強性を有していて、私たちの食生活は揺らぐことはなかった。

このような事態を踏まえつつ、国内の農業経済学関連諸学会は、
2020年3月から10月にかけて開催された年次大会でのシンポ
ジウムにおいて、各学会の専門性に依拠した視点からウィズ
コロナ期の食料消費、農業、食品産業、観光、地域の実態を
総括するとともに、中長期的な影響の検討を行った。

本シンポジウムでは、それぞれの学会の座長に一堂に会
して報告してもらい、互いの成果を共有することとする。
その上で、それぞれの学会シンポジウムの時点では議論し
尽せなかった事項を確認し、そのことを手掛かりにしながら
アフターコロナ期の食料、農業、農村をめぐる課題を展望する。



連続公開シンポジウム

第三回

Disability Inclusive Academia : 障害のある人々の視点は科学をどう変えるか

総司会 熊谷 日登美 (日本学術会議第二部会員・日本大学生物資源科学部教授)

13:00~13:05 主催者挨拶

望月 真弓 (日本学術会議副会長・慶應義塾大学名誉教授)

13:05~13:15 主賓挨拶

千原 由幸 (文部科学省科学技術・学術政策局長)

13:15~13:20 趣旨説明

熊谷 晋一郎 (日本学術会議連携会員, 東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野准教授)

13:20~14:00 シンポジウム第1部「障害のある研究者の声と実態」

13:20~13:30 本田 充 (京都大学iPS細胞研究所研究員)

13:30~13:40 勝谷 紀子 (東京大学先端科学技術研究センター特任助教)

13:40~13:50 矢田 祐一郎 (広島大学統合生命科学研究科研究員)

13:50~14:00 瀬戸山 陽子 (東京医科大学医学部講師)

14:10~15:30 シンポジウム第2部「障害インクルージョンに向けた合理的配慮と基礎的環境整備」

14:10~14:30

「聴覚障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備 (仮題)」

松崎 丈 (宮城教育大学教育学部准教授)

座長 平井 みどり (日本学術会議連携会員, 兵庫県赤十字血液センター所長)

14:30~14:50

「視覚障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備 (仮題)」

南谷 和範 (大学入試センター 研究開発部試験基盤設計研究部門教授)

座長 高橋 素子 (日本学術会議連携会員, 札幌医科大学医学部医化学講座教授)

14:50~15:10

「精神・発達障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備 (仮題)」

綾屋 紗月 (東京大学先端科学技術研究センター特任講師)

座長 竹中 麻子 (日本学術会議連携会員, 明治大学農学部農芸化学科教授)

15:10~15:30

「運動障害のある学生や研究者への合理的配慮と基礎的環境整備 (仮題)」

並木 重宏 (東京大学先端科学技術研究センター准教授)

座長 市川 哲雄 (日本学術会議第二部会員, 徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

15:30~16:00 パネルディスカッション

司会 熊谷 晋一郎 パネリスト 講演者8名

閉会挨拶 小松 浩子 (日本学術会議第二部会員, 日本赤十字九州国際看護大学学長)

後援(予定):

文部科学省, 内閣府政策統括官(政策調整担当), 国立研究開発法人科学技術振興機構,
公益社団法人日本薬学会, 一般社団法人日本看護系学会協議会, 一般社団法人日本医学会連合,
一般社団法人日本歯科医学会連合, 一般社団法人日本農学会, 生活科学系コンソーシアム,
生物科学学会連合, 日本生命科学アカデミー, 日本農学アカデミー, 男女共同参画学協会連絡会,
全国ダイバーシティネットワーク, 一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会, 日本聴覚
障害学生高等教育支援ネットワーク, 日本障害学会

お問い合わせ: シンポジウム事務局 E-mail: SCJ25.Symposium@gmail.com



参加費無料

どなたでも参加できます。
手話通訳と文字通訳がつきます。

事前参加登録

リンク先より参加登録してください。
<https://forms.gle/osn3XQhWHomFXPhv5>

